

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2021年10月4日(月)
NO. 1209号
本号3頁

立憲民主党と日本共産党が政権協力で合意

立憲民主党と共産党の党首会談が行われ、政権交代が実現した場合、共産党は立憲民主党と連立するのではなく、「限定的な閣外協力」を行うとの方針で合意しました。

9月30日の党首会談では立憲民主党の枝野代表が政権交代した場合の政権構想について、共産党は連立するのではなく「限定的な閣外からの協力」とすることを提案し、共産党の志位委員長と合意しました。志位氏は共産党から閣僚を出すことはないものの、市民連合と合意した政策や、協力できる課題については最大限協力すると強調。今回の合意について「とても満足している」と述べ、衆院選での野党候補の一本化にむけ、協議をさらに加速させる考えを示しました。

立憲民主党の政権構想をめぐっては、共産党との協力をどのような関係にするか、早急に示すよう求める声が出ていましたが、今回の合意で「閣外協力」が明確になった形です。

合意した内容は、(1)次の総選挙において自公政権を倒し、新しい政治を実現する(2)「新政権」において、市民連合(「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」と合意した政策を着実に推進するために協力する。その際、日本共産党は、合意した政策を実現する範囲での限定的な閣外からの協力とする(3)両党で候補者を一本化した選挙区については、双方の立場や事情の違いを互いに理解・尊重しながら、小選挙区での勝利をめざす—とした3点(別項)で両党が協力することです。

会談には日本共産党の小池晃書記局長、立憲民主党の福山哲郎幹事長が同席しました。

また、枝野氏は10月4日の臨時国会で首班指名選挙で自身への投票を要請しました。これに志位氏は「こういう内容が合意された以上、当然、枝野代表に投票します」と答えました。

会談後、志位氏「大きな一歩を踏み出す合意を得られた」と語る

志位氏は、会談後の会見で、次のように述べています。

「今回の党首合意は、全体として、市民と野党の共闘を大きく発展させる、画期的な内容になったと思います。とくに『新政権』において両党が協力していくことが合意されたことは、きわめて重要な前進です。こうした合意を得たことを心からうれしく思っています。日本共産党にとっては、99年の歴史のなかで、こうした合意を得て総選挙をたたかうのは初めてのことになります。2015年9月に、国民連合政府を呼びかけてから6年間、野党が協力して新しい政権をと訴えてきましたが、それに向けて大きな一歩を踏み出す合意を得られたことを、重ねて心から歓迎します。

『限定的な閣外からの協力』という合意になりましたが、わが党は、一貫して、『閣内協力も、閣外協力もありうる』と言ってきましたが、ですからこうした合意になったことに、とても満足しています。『限定的な閣外からの協力』ということですが、『新政権』において、実現のために協力することを合意した政策——市民連合と合意した政策は、あれこれの部分的な政策ではありません。9年間の安倍・菅自公政治をチェンジする要となる政策がしっかりもりこまれています。『新政権』において、そうした政策を実現するために協力することが合意された意義は、たいへんに大きいと考えます。わが党は、この合意を力に、協力して選挙に勝ち、政権交代を実現し、新しい政権をつくるために全力をあげます。

立憲民主党は国民民主党・社民党とも会談 政権交代へ協力一致

立憲民主党の枝野代表は30日、国会内で、国民民主党の玉木代表、社民党の福島党首とそれぞれ個別に会談しました。

枝野氏と玉木氏、福島氏は、衆院選挙で自公政権を倒し、政権交代を目指すために協力することをそれぞれ確認しました。

また、枝野氏は10月4日の臨時国会で首班指名選挙で自身への投票を要請しました。これに玉木氏は「別の会派だ。衆院選を控えて、それぞれの党の政策や立場もある」として独自の対応をとる考えを示しました。福島氏は枝野氏の要請を受け入れました。

任命拒否撤回を!! 日本学術会議会員任命拒否から1年

日本学術会議の梶田隆章会長は30日、25期の活動開始から1年にあたっての談話を発表しました。菅首相が会員候補6人の任命拒否を撤回しないまま1年が経過したことに対し、法の定めを満たさない状態の長期化は到底受け入れられないと批判しました。

同日、オンラインで開いた記者会見で梶田会長は、「推薦した候補が任命されず、理由さえ説明されない状態が長期化していることは、科学と政治との信頼醸成と対話を困難にする」と指摘。幹事会の後に開かれた会見では「この1年は私たちにとって文字通り試練の1年だった。新しい首相がどなたになっても、任命されるよう努力していきたい。機会があれば（新首相に）お会いして、お話をさせていただければ」と述べました。

談話では改めて、同会議が一貫して6人の即時任命と拒否した理由の説明を求めると同時に、首相には任命の責務があると指摘してきたことを強調。学術会議をめぐるさまざまな議論がおこるも、同会議はよりよい役割を發揮するための「自己点検と自己改革」の議論を進めてきたと紹介しました。



感染症や気候変動の危機に触れ、「科学的知見を尊重した政策的意思決定がこれまでも増して求められる現状にあって、日本の科学者の代表機関としての本会議が科学者としての専門性に基づいて推薦した会員候補者が任命されず、その理由さえ説明されない状態が長期化していることは、残念ながら、科学と政治との信頼醸成と対話を困難にする」と指摘し、「相互の信頼にもとづく対話の深化を通じて現在の危機を乗り越える努力が重ねられることを強く希求」するとしています。

振り返ってみますと、安倍政権が進めた安保法制や「共謀罪」法、改憲の動きに、批判的な言動をしてきた人文・社会科学の分野の研究者6人が任命されず、理由の説明を求めても菅首相は「総合的、俯瞰（ふかん）的に判断した」「既得権益、前例主義を打破したい」などと明確な説明を避け続けてきました。この1年間の菅政権の対応に怒りを感じずにはられません。岸田氏は、梶田会長らと向き合い、しっかりと任命拒否を撤回すべきです。

自民党人事 疑惑の甘利氏幹事長に、改憲固執する高市氏政調会長に

自民党は1日、党本部で臨時総務会を開き、党4役などの新役員人事を決定しました。人事でも安倍晋三前首相の傀儡政権を露骨に示す体制です。

幹事長には、安倍政権時代に金銭疑惑で閣僚辞任に追い込まれ、説明責任を果たさないままの甘利明党税調会長が就任。政調会長には同じく安倍氏側近で改憲タカ派の高市早苗前総務相を据えましました。総務会長に細田派の福田達夫国対副委員長、選対委員長に無派閥の遠藤利明元五輪担当相がそれぞれ就任しました。副総裁に麻生太郎副総理兼財務相が就任しました。

麻生氏を含め、安倍前首相に近い「日本会議国会議員懇談会」の中心メンバーで要職を固める「安倍政治継承」と改憲シフトが強くにじみます。

疑惑にまみれたままの甘利氏を幹事長に据えたことは、安倍・菅政権における政治腐敗への無反省を示すものです。甘利氏は就任会見で、「私はこの事件に関して事情を全く知らされていなかった。寝耳に水（だった）」などと強弁。自身の説明責任については「辞任会見で質問が出尽くすまで答えた」と開き直りました。

新役員の記者会見で高市政調会長は、記者から憲法改正を「次期衆院選の公約に掲げるか」と問われ、「自民党として積み上げてきた『改憲4項目』がある」「憲法改正の実現に向けた項目を柱としてしっかりと立てる」と改憲推進の姿勢を鮮明にしました。

自民党役員人事に「傀儡政権」めざす安倍前首相「気に食わず、イライラか」

それでも安倍前首相は、自民党総裁選は思惑通りの展開で岸田新総裁が誕生し、新体制は岸田氏の独自色が見えず、「安倍傀儡政権」と揶揄されるほどなのに、「気に食わず、イライラか」と報じられています。

報じられているところによると、「安倍前総理が押し込もうとしていたのは、『高市幹事長』『萩生田官房長官』。高市陣営を全面支援したことで、憲法改正などに消極的な菅政権下で離れた保守層の引き戻しに成功。だから、衆院選に向けた『党の顔』は高市氏がふさわしいとの理由です。

岸田新総裁が選出された直後から細田派幹部に“アベフォン”をかけまくり、高市氏を幹事長に推薦するよう求めたそうです。しかし、高市氏は町村派（現細田派）を飛び出した人。幹部は〈なんで、高市氏をやらなきゃならんのだ〉〈安倍前総理は派閥を離れた立場なのに〉と不満タラタラだった（自民党関係者）」とのこととか。結局、高市氏は選挙公約をまとめる政調会長に就任。第2次安倍政権以来2回目で、いわゆる安倍応援団の間からは「格下げだ」「体のいい封じ込めだ」と見当違いの批判が上がっているとか。

一方、安倍氏最側近の萩生田氏の官房長官就任は「新聞辞令」。「既成事実化を狙った安倍前総理サイドが積極リークしていた」とのこと。起用が決まった松野氏は、政調会長時代の岸田氏に会長代理として仕えた仲です。「さすがの岸田総裁も安倍前総理の要望丸のみは拒んだようです。落としどころが甘利幹事長で、麻生新副総裁の手前、安倍前総理も不満をのみ込むしかない」と、報じています。

ご案内

自公政権交代！政治を変えよう！総選挙勝利！ 10・4臨時国会開会日行動

【日時】10月4日（月）12:00～12:45

【場所】衆議院第2議員会館前路上

発言：各野党国会議員と市民

（山口二郎・市民連合運営委員、瀬戸大作・反貧困ネットワーク、ほか）

【主催】総総がかり行動実行委員会・全国市民アクション

★NO！デジタルの日アピール行動 一平井大臣は辞任、デジタル庁は解散を！一

◆10月10日（日）14:00～16:00

*14:00～14:30 デジタル庁前（東京ガーデンテラス紀尾井町ビル）

*15:00～16:00 新宿駅南口

★NO！デジタルの日 市民集会

◆10月11日（月）16:00～18:00

*会場：参議院議会議堂 講堂

*お話：武藤糾明さん（日弁連情報問題対策委員会副委員長）リモート参加

「この国のデジタル化はどこに行くのか!？」

小倉利丸さん（JCAネット）

「警察庁サイバー局新設は何をもたらすか」

*発言：共通番号いらないネット・共謀罪NO！実行委員会

■共催：共通番号いらないネット / NO！デジタル庁

共謀罪NO！実行委員会 / 「秘密保護法」廃止へ！実行委員会